

父である私が厳しく論すべきだったと思う。」
母 「私はそのとき、カッとなっていきなり子供を叩いてしまった。兄の財布から取ったのはどうしてなのか、子供の心を聞かなかった。」
両親 「本人は末子だったもので、甘やかし、わがままいっぱい育ててきた。」

父 「特に父である私が本人の行動に対して甘かった。本人が他人のおもちゃを黙って持って来ても、『まだ小さい子供なんだから』などと大目にかかわってきた。それが、良い・悪いのけじめのない子供にしてしまったのかも…。」

- これからは、日常生活の中で、子供の話に耳を傾けること、いつくしみながらもけじめのある態度で接するようにする。

② 本人

- 「父が家にいないので寂しい。母はなににかにつけてガミガミいう。でも寂しいから母のそばにいたい…。でも、母はかまってくれない。」
- 運動をする — バドミントンをする。しかしシャトルを追いかけない。元気がない。

(3) 第4回面接 — 並行面接 —

① 両親

- なぜ兄の財布からおかねを取ったかを考える。
母 「兄や姉はすなおで勉強もよくできる。本人はわがまま、勉強もよくできない。それで、つい、『兄や姉を見習いなさい』などとたしなめることが多かったように思う。」

父 「兄、姉と本人が仲良くないのはそのせいかも知れない。」

母 「それで本人は兄姉を憎く思い、兄の財布からお金を取り、兄を困らせたわけね…。」

父 「そのときの本人の心を理解せずに、怒ったり叩いたりした……本人はかわいそう…。」

- これからは、子供を公平に扱う、兄や姉と比較しない。体でかわいがる努力をする。

② 本人

- 「このごろ、父は家にいることが多くなり、いっしょに遊べるので楽しい。母もガミガミ言わなくなり、なんとなくやさしくなった…。」

- 運動をする — バドミントンをする。シャトルを追う動作にも積極性が見られるようになる。

(4) 第5回面接 — 並行面接 —

① 両親

- このごろの本人の様子について

父 「本人の態度が明るくなり、父や母に話しかけてくることが多くなってきた。」

母 「兄や姉との比較を一切言わないように努力しているせいか、兄や姉とのいさかいが少なくなってきた。」

- 母と担任との連絡ノートについて

母 「監視や規制のための連絡ノートでなく、本人を認め、ほめ、励ますノートにしたい。」

- これからは、遊び場や遊び相手の制限や禁止を解除してみよう。このことは、本人の誕生日を契機にし、「人に迷惑をかけない」などの、父との固い約束をかわし、自律を促してから実施する。また、生活の制限を解いた以上は、全面信頼の態度で本人に接するようにする。

② 本人

- 「母が病気のととき看病した。ほめられたのでとても嬉しかった。お兄ちゃん、お姉ちゃんと台所の仕事をした。とても楽しかった。」
- 本人の希望によりプレールームで遊ぶ — ガンダムなどの強い人形が、弱い人形を助けるなどの遊びが見られる。

(5) 第6回面接 — 並行面接 —

① 両親

- このごろの本人の様子について

母 「連絡ノートの内容を、“本人への賞揚”を主にしたものに変えてからは、自分から連絡ノートを母に見せるようになった。」

父 「遊び場や遊び友達の制限を解いてからは見違えるように明るく、伸び伸びしてきた。

『人に迷惑をかけない』という父との約束をしたせいか、遊びの外出から早く帰るなど、自律的な生活が目立ってきた。」

- ここ2か月間、盗みの行為が見られないこと